



#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要出荷先でのトップアプローチとともに、県内外での販促活動やPR活動を積極的に実施した。</li> <li>・短期集中県域支援品目については、販路開拓アドバイザーによる新規販売先の開拓や、大手食品メーカーと連携したプレゼントキャンペーンなどを実施した。</li> <li>・影響力のあるインフルエンサーなどを活用したイベントやホテル等と連携した食べる機会の創出、SNSを活用した魅力の発信により、新規に38店舗のうまみだけ取扱店舗を確保した。</li> <li>・「おおいたの魚パートナーシップ飲食店」としてハモ等の取扱い実績のある天井チェーン店(店舗数:145店舗)を認定した。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化の取組拡大を図るため、オンライン商談会を開催して商品の販路開拓を支援したほか、商品開発から販路開拓まで体系的な知識を修得できる研修会を開催し、人材育成を進めた。</li> <li>・建築物木材利用促進協定を締結し、民間事業者(1者)による施設の木造化・木質化が図られた。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県域出荷組織「おおいた有機野菜等生産出荷体制構築会議」の販売部門として、新たに「おおいた有機野菜等販路流通組織設立準備室」がR4.4に設立され、販路拡大に向けた商談の実施や主に県内の物流網の構築のために試験的に福岡への共同出荷等を実施した。</li> <li>・キウイフルーツやぶどう等の産地拡大推進品目の栽培施設や基盤整備等により、産地拡大推進品目の栽培面積は45.4ha増加した。</li> <li>・木材加工施設の整備や、大径材製品の販路開拓等を行い、木材の利用拡大を図った。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の市場を取り込み農林水産業者の所得向上を図るため、現地商社等と連携した販促活動や商談等に取り組んだ結果、輸出延べ品目数で57品目と目標を達成した。</li> </ul>

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(5年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	The・おおいたブランド流通販売戦略推進事業	116.7	178
	しいたけ消費拡大対策事業	80.0	179
	県産水産物流通拡大推進事業	100.0	179
②	6次産業化サポート体制整備事業	150.0	180
	木造建築物等建設促進総合対策事業	100.0	180
③	持続可能な豊かな有機産地等活性化事業	95.5	180
	おおいた園芸産地づくり支援事業	100.9	182
	林業再生県産材利用促進事業	133.3	184
④	農林水産物輸出需要開拓事業	92.9	185

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○第7回大分県農業総合戦略会議(R5.8)  
 ・大分県農業総合戦略会議で取りまとめた行動宣言の着実な実行に向けて、具体的な取組を行っているが、今後は、さらに取組を加速させる必要がある。

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業総合戦略会議での「行動宣言」を踏まえ、伸び代がある園芸品目の生産拡大や肉用牛を中心とした畜産振興を進め、農業の成長産業化に取り組む。</li> <li>・短期集中県域支援品目への重点支援により、ボトルネックの解消に取り組み、栽培面積拡大と産出額向上を図る。</li> <li>・乾しいたけの新ブランド「うまみだけ」、かぼす養殖魚などのブランド化を図るとともに、生産・流通拡大を進める。</li> <li>・市町村単位での有機農業者の組織化を進め、土壌診断に基づく土作り等生産力向上に向けた支援を行うとともに、県域での有機野菜生産出荷体制の強化に向けた法人組織の立ち上げを視野に入れた活動や学校給食への食材利用拡大等の流通販売対策を行い、有機農業の拡大を図る。</li> <li>・輸出先国のニーズに対応した産地づくりやJETRO等と連携した新たな販路開拓など、輸出拡大に向けた戦略的な海外展開を進める。</li> </ul>